

ピアサポ通信

第4号

令和4年3月発行

この通信は、ピアサポート活動ワーキンググループの様子をお伝えし、参加者や関係機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。

＜世田谷区精神障害者等支援連絡協議会 ピアサポート活動ワーキンググループ＞

区では、障害福祉計画である「せたがやノーマライゼーションプラン（令和3～5年度）」で掲げられた「精神障害者施策の充実」に向け、ピアサポーターが活躍する機会を拡充するために、世田谷区精神障害者等支援連絡協議会のワーキンググループを設置し、検討を進めます。

※ピアサポート活動の拡充は、障害種別を問わず進めていくことが望ましいものですが、精神障害者等支援連絡協議会において協議を進めていることから、まずは精神障害における取り組みを進めていきます。

第4回 ピアサポート活動ワーキンググループを開催しました



テーマ「人と場をつなぐ」

第4回ピアサポート活動ワーキンググループでは「人と場をつなぐ」をテーマとし、これまでと同様に共立女子大学の河原教授に進行をお願いし、登壇者4名によるパネルディスカッションを行いました。オンラインで開催し、参加者からの意見や質問を募りながら進めました。

＜次ページ以降に続きます＞

日時：令和4年2月3日（木）午後1時30分～4時

場所：オンライン（視聴会場：東京リハビリテーション世田谷 地域交流スペース）

参加人数：45名

事前申込人数：52名（オンライン参加44名、会場参加8名）

＜内訳＞当事者18名、当事者家族4名、支援関係者※27名、その他3名

（支援関係者※内訳：障害者支援事業所9名、高齢者支援事業所2名、病院・訪問看護4名、

居住支援関係者2名、民生・児童委員行3名、行政関係2名、学識・アドバイザー2名、その他3名）

登壇者：【コーディネーター】共立女子大学 河原 智江氏

【パネリスト】

医療法人社団風鳴会 地域生活支援センター サポートセンターきぬた 山上 亮子氏

社会福祉法人ひらイルミナル 地域活動支援センターこまつがわ 稲富 良子氏

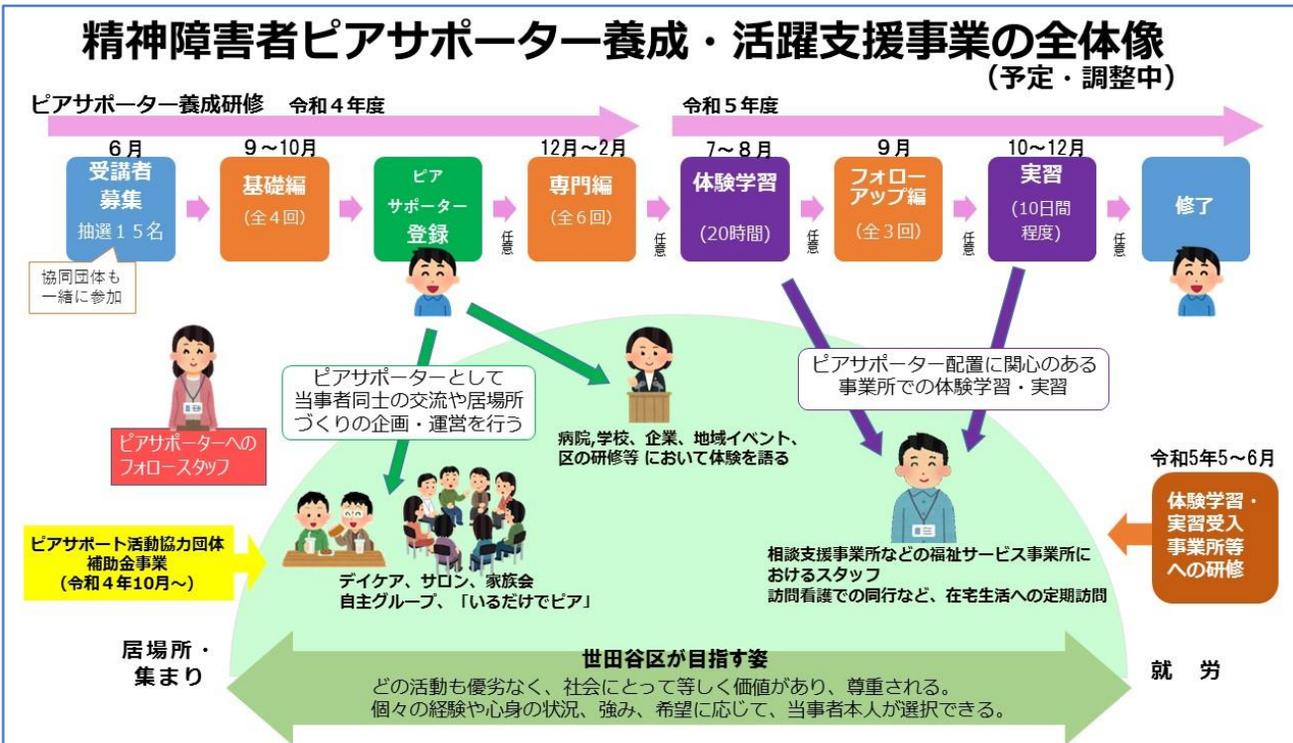
相談支援センターくらふと 高田 晴江氏

社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会 連携推進課 遠藤 慧氏

令和4年度より新たな事業をスタートします！

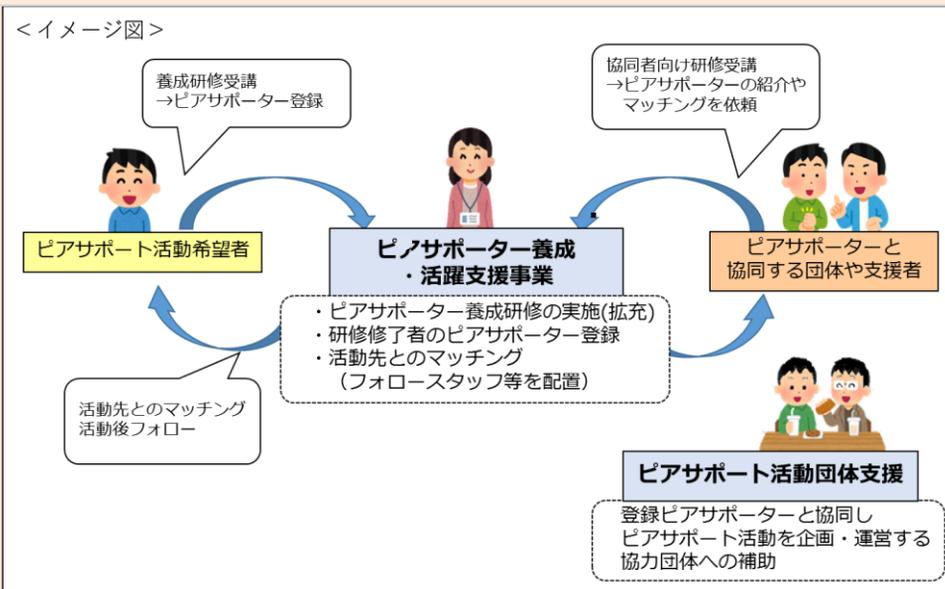
これまでのピアサポート活動ワーキンググループでいただいたたくさんのご意見をもとにして、令和4年度から新たに「精神障害者ピアサポーター養成・活躍支援事業」をスタートする予定です。

“人をひろげる”ピアサポート研修



基礎的な研修に加え、新たに地域の多様なピアサポート活動を体験学習する研修を実施する予定です。

“場をひろげる”ピアサポート活動団体支援事業



地域でのピアサポート活動を増やしていくために、ピアサポーターと協同してピアサポート活動の企画・運営する団体に補助金を交付します。

また、フォロースタッフを配置し、ピアサポーターをサポートするとともに、ピアサポーターとピアサポーターと協同する団体等や活動先とをつなぐ、マッチング支援を行っていきます。

これまで挙げた意見に加えて、今回の第4回ピアサポート活動ワーキンググループでのご意見もふまえ、事業の枠組みや内容を決定していきます。

“やれたらいいな”と思うピアとの協同事業

地域生活支援センターサポートセンターきぬたの山上さんより、「ピアサポート活動団体支援事業」を活用して“やれたらいいな”とご自身が思っていることや、ピアサポーターと共に場をつくる立場として地域の事業所の方々の声を紹介していただきました。

<防災×ピアサポーターの可能性>

(右図) 様々なアイデアをご紹介いただいた中、防災について多くの意見が挙げられました。

●私は精神障害当事者ですが避難所での配慮がなされていないと避難所に足を運ぶことをためらってしまうと思います。例えばカーテンで仕切りをする、他の被災者の方への理解を促していただくなどそういうことから皆で考えたいと思いました。

●ピアサポートで防災の領域に言及があったことが新鮮に感じました。この分野はまだ配慮が足りていない部分が多くありそうなので可能性を感じています。

これらを受けて、パネリストの地域活動支援センターこまつがわの稲富さんからは「地域で防災カフェ、地域を知るスタンプラリー、非常食の配布等を楽しいイベントとして実施している。“防災について自分たちになにができるか”を地域の住民が皆で一緒に考え、つなげる機会をつくることも大切」とご意見をいただきました。

これに対し参加者からも、「ぜひ世田谷区でも防災の取り組みを！」という声が挙がりました。

やれたらいいなと思うこと

- ・テーマ別「語る会」あれこれ
「統合失調症を語ろう会」
「一人ぐらしを語ろう会」
「近所の騒音について語ろう会」
- ・家族向けに
「家族の対応」「親亡き後」をテーマにした「語る会」
- ・防災について
地域の防災関係の活動と一緒に参加してもらおうとか...

“人”とつないでもらいたい“場”の立場から

ピアサポーターをお願いする、
と考えたとき頭をよぎるあれこれ



これらについては参加者からこんなご意見も。

●(山上さんのお話で)「ピアサポーターがどんなことができるのか、まずはメニューが欲しい」という事業所からの意見が多かったと聞き「あなたは何かできる人ですか?」が問われているなと思いました。まずピアサポーター自身の“たな卸し”をする必要があること、その“たな卸し”はピアサポーター達の話し合いでもできるな、とも感じました。

●100人ピアがいれば100通りのメニューを提供できるのでは?

人が《地域》とつながる《居場所》づくり

世田谷区社会福祉協議会の遠藤さんより、福祉活動に関わる住民・団体を増やしたり、子ども食堂や高齢者・障害者の仲間づくりや居場所づくりを進めている立場から、ご自身の経験や実践を交えてお話をいただきました。

<第3の居場所の大切さ>

例えば小学生にとっての居場所は家と学校。
学校でうまくいかなかった時、家から出られなくなるかもしれない。

そこに、子ども食堂という第3の居場所があるといい。
誰にとっても、この第3の居場所があると、安心できる居場所が増えることは、生活の安定につながり、大切なこと。

<人と場がつながるために背中を押すこと>

誰でも参加できる居場所づくりを目指し「上北沢えんがわカフェ」をスタート。

食事とコーヒーを出すこと以外はプログラムを決めず、アンケート等で参加者に企画から参加してもらっている。
様々なアイデアが出され人数も増え、大盛況に。

居場所って何？ ①地域移行・定着の視点から

《第3の居場所（サードプレイス）という考え方》



《日常生活に置き換えてみると（小学生を例に）》



② “誰でも”参加できる居場所づくりの課題 「居心地が良くないと居場所にならない」

居心地の良さを感じる条件は人それぞれ

→どのようなプログラムにするか

「誰でもどうぞ」で誰でも来るわけではない

→「来てほしい人」をどのようにお誘いするか

「来てほしい人」の支援者（専門職）の方々と一緒に企画をし、背中を押してもらうことが必要

地域の声かけから始め、プログラムの検討や参加者をどうお誘いするかまで、準備を重ね第1回えんがわカフェの開催まで1年半かけた。

誰でも、新しい場所に足を運び、人とつながることは不安があり、勇気が必要。それは場に参加する人も、場を運営する人も同じ。

これから「ピアサポーター養成・活躍支援事業」を通じて、様々な人や支援者や専門職の方々が、人や場とつながれるよう、一緒に“背中を押す”一助をしていきたい。

参加者からの声です。

- 第3の居場所の考え方がいいなあと思った。当事者にとって居場所は必要です。
- 人をつなげるための場づくりという視点で、“人と場をつなげる”ことが必要なのかなと思いました。
- 様々な人を巻き込む力が大事なのだらうなと感じました。



江戸川区精神障害者ピアサポーター育成事業について

地域活動支援センターこまつがわの稲富さんに、令和2年4月から実施している「江戸川区精神障害者ピアサポーター育成事業」についてご紹介いただきました。また、この事業の研修を修了し、現在は相談支援センターくらふとでピアサポーターとして活動されている高田さんに、感じたこと等をお話いただきました。

ピア普及を妨げる地域課題と挑戦

アフターフォローが少ない地域課題

ピアの専門性を持ちながら業務に取り組む難しさ、揺らぎや孤立感。また、症状と付き合いながら働くが、理解のある環境整備が出来ず離職につながることも。

個別支援、定着支援

(ピア就労の応援チーム)

ピアの仲間づくり

(ピアハートの森)

リカバリストoriesの
ブラッシュアップ支援

活躍できる場が少ない地域課題

ピアサポーターになりたい人はたくさんいるけど、研修受講や自己研鑽を積み重ねてもピアサポーターのチャンスは少ない狭き門。(ピア加算でこれから期待！)

活躍の場の開拓

ピアの登録システム

雇用先へのフォロー

(事業者むけ研修、雇用相談)

ピアサポーター研修会

(B型、相談支援事業所は加算対象)

<アフターフォローの取り組み>

ピアサポーターへのアフターフォローが少ないこと、活躍できる場がないという地域課題に対して、立ち上げた事業。

ピアサポーターに関わる様々な機関が皆で情報を共有し、話し合い応援する、サポート体制づくり。

ピアサポーターが研修修了後に支援者が少なくなることも多い中、帰る場、語り合える集いの場が自助グループ「ピアハートの森」。

自立して講演依頼を受けられよう、依頼内容に合わせたリカバリストoriesのブラッシュアップを支援。状況の変化に寄り添い、サポートしている。

コロナ禍もあり、活躍できる場の開拓が予定どおりに進まない中であるが、今後は学校や就労施設、グループホーム等へ声をかけ、推進していきたい。

活躍の場を開拓していきたい 青→地域 赤→活躍方法

地域で活躍できる場	<p>事業担当者は、区や学校、地域向けに精神障害者が暮らしやすくなる理解・啓発活動の開拓</p> <p>受講後は、区や学校、地域向けにリカバリストoriesを活用しながら理解・啓発活動に挑戦</p>
ファシリテーターやグループワークで活躍できる場	<p>事業担当者は、都や区、事業所や地域向けに当事者だから効果的なグループワーク活動の開拓</p> <p>ピアサポーター研修会、ファシリテーターの研修の受講</p> <p>受講後は、ピアサポーター研修やピアミーティング等で実践</p>
地域移行支援等で活躍できる場	<p>事業担当者は、都内、都内近郊の地域移行支援に効果的な場の開拓</p> <p>受講時は、都内、都内近郊の病院や地域移行支援の実習</p> <p>受講後は、地域移行支援の実践</p>
雇用で活躍できる場	<p>事業担当者は、ピアサポーター等の雇用先開拓</p> <p>雇用先の事業所へアセスメントとアフターフォロー</p> <p>受講時は、区内の障害福祉サービス等の実習</p> <p>受講後は、個々のピアサポーター就労支援チームの構築</p>

<研修や就労の場で感じたこと>

～高田さんのお話より～

研修はグループワークが楽しく、特に自分の話を聞いてもらったり、様々な人のことを知ることができて楽しかった。

コロナ禍で対面ではなく、オンラインだったのが緊張した。でも自分が誰かの役に立てるのなら、それが仕事になるのなら、という気持ちで頑張れた。ピアサポーターとして働く場で、難しい専門用語を言われてしまうと分からず困り、大変だったことがあった。

<“優等生”ではなく、個性を大事に>

「支援者の方々の想定する“ピアサポーター＝優等生”的に感じてしまうのが残念です。型にはまりきれない、ちょっと“悪い子”的な当事者のポテンシャルを信じていただきたいと思います」という参加者のご意見。

これを受け、高田さんが髪の毛をピンク色に染めたときに「家庭訪問もするのに(その色はどうだろう…)」という反応もあった一方で「素敵だね！」と言ってくれる方もいて、賛否両論だったこと。“優等生”や“世間の一般常識”だけではなく、お互いにその人の個性を大事にしていきたい。というエピソードをお話いただきました。

参加者からのご意見・ご感想

世田谷区ホームページに、講話資料と合わせて皆様にご覧いただいたご意見ご感想の詳細を掲載しておりますので、どうぞ合わせてご覧ください。

参加者からのその他のご意見を一部ご紹介いたします。

- ・居場所は障害者だけではなく、その近くに住む人の誰もが自由に参加できる場所、参加する場所にしたい方が良くと思う。
- ・地域社会では、就労を支援してくれる施設は多いものの、就労をしたくない精神障害者の居場所が極端に少ないと感じています。
- ・陰性症状が強い時は、家が一番居心地のいい場所となります。同じ趣味で年が近い人を紹介していただき、その方と共にならば色々参加出来るのではないかと、という希望がございます。
- ・世田谷区では、来年度から新たに養成講座も始まるとのこと。支援がより進められ、サポーターが増えることを心から期待しております。

✿ 事務局より ✿

今回のピアサポート活動ワーキンググループでも、パネリストのみなさま、参加者のみなさまからたくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。

いただいたご意見もふまえ、令和4年度からの「精神障害者ピアサポーター養成・活躍支援事業」の枠組みや内容を決定し、いよいよ新たな事業をスタートしていきます。

今後も引き続き、みなさんと共に、意見交換しながら、“あったらいいな”のピアサポート活動の取り組みを進めていきたいと思っております。

共に支え合い、安心して生活できる、地域共生社会の実現に向けて、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



今後の予定

第5回ワーキンググループ	令和4年6月13日 予定	意見交換会 ★対面でのグループワーク 令和4年5月中旬頃に詳細をご案内します
ピアサポーター養成研修	令和4年9月より 開始予定	令和4年6月中旬より詳細をご案内、募集します

参加者みなさまがワーキンググループメンバーです！
様々な方のご参加、ご意見をいただきながら
ピアサポート活動の拡充に向けて取り組んでいきます。
引き続き、ご参加をお待ちしております。

世田谷区精神障害者等支援連絡協議会 ピアサポート活動ワーキンググループ 事務局

世田谷区 障害福祉部 障害保健福祉課 TEL : 03-5432-2247 FAX : 03-5432-3021

【世田谷区ホームページ】

URL : <https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/fukushi/005/002/002/002/d00191091.html>

* 右記の二次元コード、もしくは 区ホームページの検索バナーに
ページ番号「191091」を入力し
検索すると、すぐにご覧いただけます。

